学校番号	1004

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	生物（数研出版）						
副教材等	セミナー生物（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てる」小・中学校での理科の学習を終えて、人と自然について「遺伝子」、「恒常性」、「生態系」という3つの視点を見ると、どのように見えてくるのか？どのように生き、行動すれば人と自然を大切にし、健康な生活を送れるのか？この2つの問題を常に意識して、学び考え続けてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

【思考力、判断力、表現力等】

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

1学期	第4編 生物の環境応答	第5章 動物の反応と行動 外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。	a: 外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について調べようとする。 b: 外界の刺激を受容する受容器について眼や耳を中心に、その働きを考えることができる。神経系において情報を伝えたり処理する神経細胞が刺激を伝達する仕組みを考えることができる。刺激に対し反応して働く器官である効果器の働きを、筋肉を中心に考えることができる。神経系の種類(散在神経系・集中神経系・脊椎動物の神経系)や情報の伝達を考えることができる。刺激に対する反応としての動物個体の行動や動物が生まれてから受けた刺激によって行動を変化させたり、新しい行動の示す学習についても考えることができる。 c: 盲斑の位置を調べて、眼球の構造について、また、盲斑の形の個人差についても考えるため盲斑の位置や形を紙上に表すことができる。	定期考査	定期考査 調べ学習、思考課題等	授業プリント 実験レポート 課題等
2学期	第4編 生物の環境応答	第6章 植物の環境応答 植物が周りの環境からの刺激に応答する仕組みを理解する。	a: 植物が周りの環境からの刺激に応答する仕組みを調べようとする態度が育っている。 b: 植物の成長や反応を調節する物質である植物ホルモンや光受容体、また、植物の環境に応答した発芽と成長の仕組みを考えることができる。植物の環境応答に関係している、植物ホルモンの働きを考えることができる。 c:植物の発芽と成長の環境応答について理解しようとしている。植物の一生と環境応答について理解しようとしている。	定期考査	定期考査 調べ学習、思考課題等	授業プリント 実験レポート 課題等

3学期	第7章　生物群集と生態系	個体群の構造と性質 個体群内の個体間の関係 異なる種の個体群間の関係 生態系の物質生産と物質循環 生態系と人間生活	a: 個体群レベルから順にそれぞれの段階で繰り広げられる生物のさまざまな営みと、環境との関係を調べようとする態度が育っている。生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぼうとする。 b: 個体群（ある一定の地域に生息する同種個体の集まり）の個体の分布（ランダム分布・集中分布・一様分布）、成長曲線、密度効果の変動や個体群の種内関係を考察できる。被食者－捕食者相互関係や共生と寄生などの異種個体群間の相互関係を考えることができる。いくつもの種類の個体群が互いに関係をもちながら集まって形成される生物群集の成り立ちや、食物連鎖を考えることができる。生態系における植物による物質生産、動物の同化量・生産量とエネルギー効率や生態ピラミッドを考えることができる。生物多様性の重要性や、外来生物・個体数の影響により個体群の絶滅の可能性があることを考えることができる。 c: ある一定の地域に生息する同種個体の集まりである個体群とその変動を学ぶ意欲がある。異種個体群間の関係がわかる。生物群集とその構造がわかる。植物群落の構造を同化器官と非同化器官の空間的な分布から調べることができる。生態系と物質生産、生物多様性について自ら学ぶ意欲がある。	定期考査	定期考査 実験レポート、調べ学習等の課題提出	授業プリント提出 実験レポート等の課題提出 課題等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度